

6 親子関係

1 親子関係

親（保護者）に「よくほめられる」が増え、「よくしかられる」が減少している。

この調査では、児童・生徒に対して、親（保護者）や家族との関係をたずねた。図 6-1 は家族との日常生活に関わる 4 項目について「よくある」と回答した割合を各年度で比較しているものである。「家族と話をする」「親（保護者）にほめられる」が「よくある」と回答した児童・生徒の割合がいずれも過去 4 回の調査に比べて高くなり、反対に「親（保護者）にしかられる」が「よくある」と回答した割合が低くなっている。また、コロナの影響とも考えられるが、「休日に家族と買い物や遊びに出かける」の割合が低くなっている。

この 4 項目に対する回答の結果をそれぞれ児童・生徒の男女別と学年別に見てみる。「家族と話をする」については、「よくある」と回答した割合が、女子で 82.5%と、男子の 73.5%より高くなっている。また、学年が上がるにつれて、家族との会話はすこし減じている（図 6-2）。「休日に家族と買い物や遊びに出かける」についても、同様の傾向が見られる（図 6-3）。

一方、「親（保護者）にしかられる」については、男女別では、男子のほうがしかられる割合が女子よりやや低くなっている。また、学年が上がるにつれてしかられる割合は緩やかに減少している（図 6-4）。

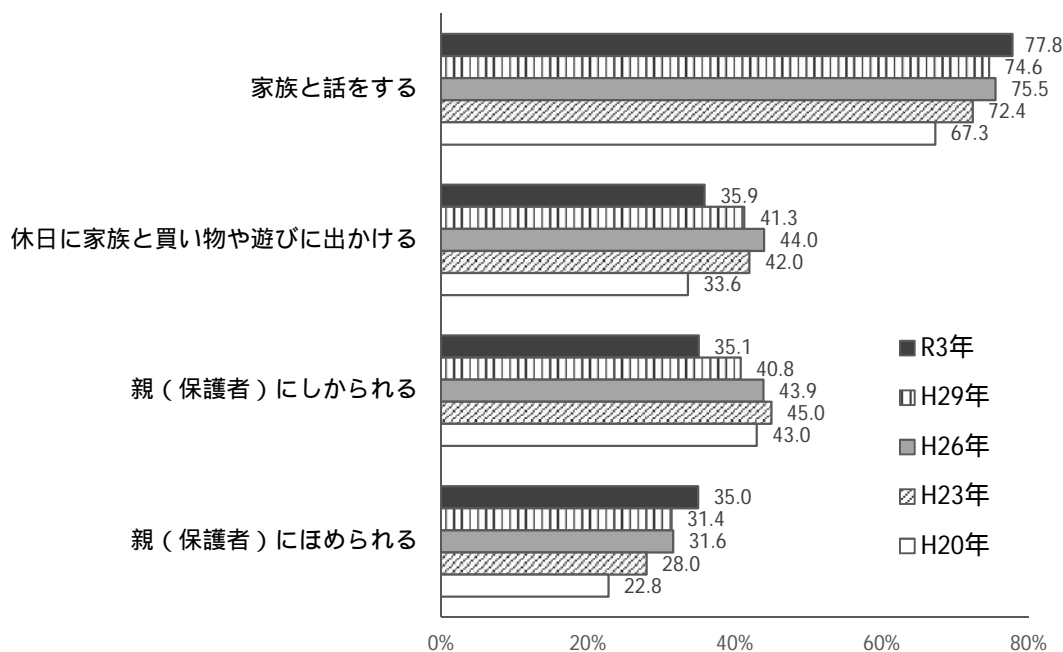


図 6-1 [児童・生徒]親（保護者）との日常生活におけるかかわり（「よくある」と回答した割合）

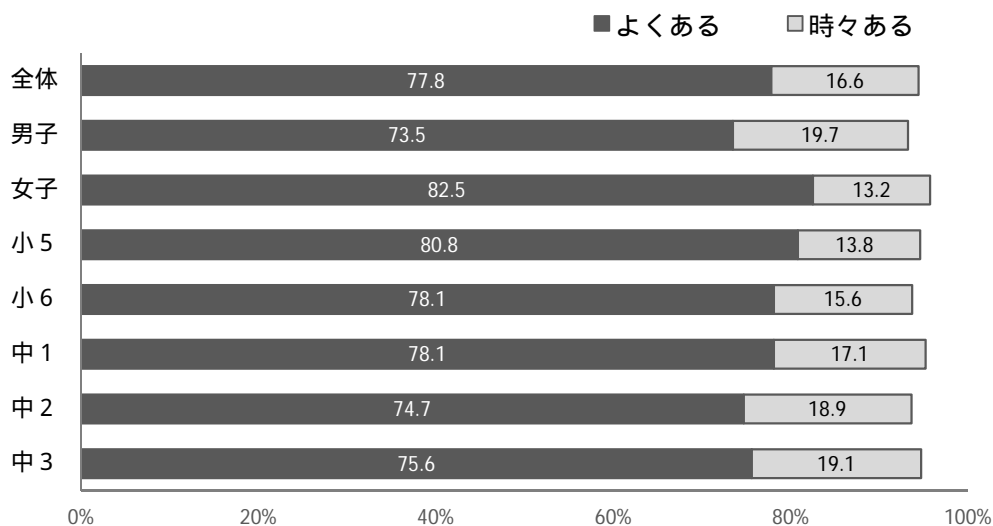


図 6-2 家族と話をする

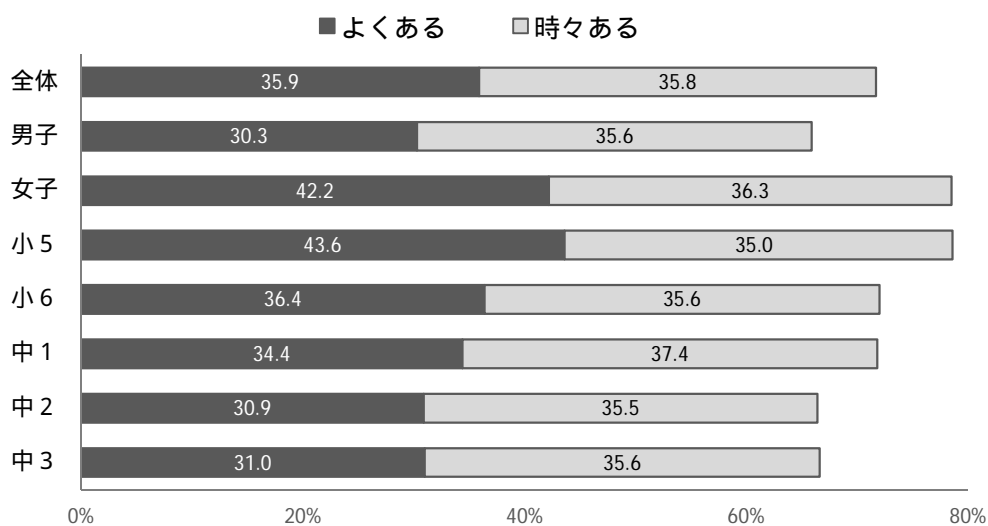


図 6-3 休日に家族と買い物や遊びに出かける

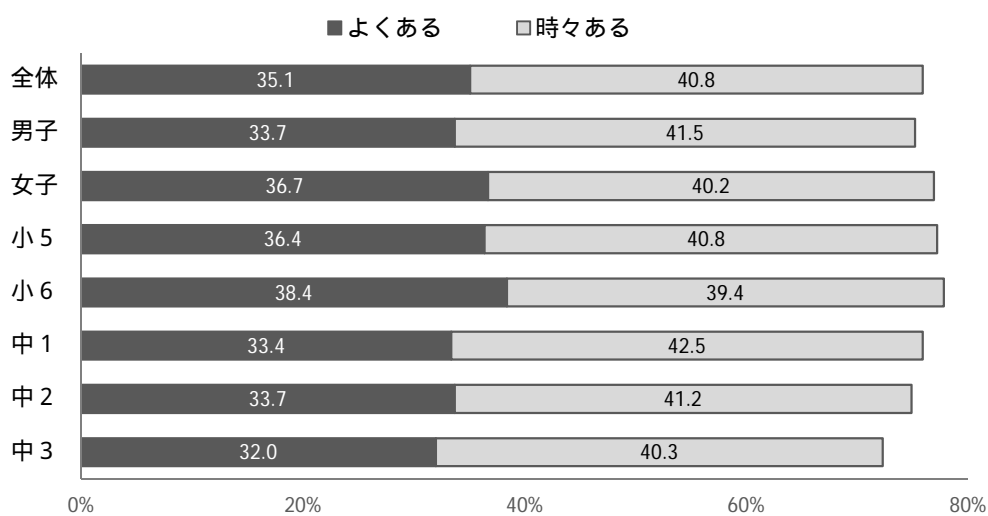


図 6-4 親(保護者)にしかられる

逆に、「親（保護者）にほめられる」については、「よくある」と回答した割合が、女子で40.7%と、男子より11ポイント高くなっている。学年別では、小5で40.7%、小6で39.3%と高くなっているが、中3になると、29.6%まで減少している（図6-5）。

親（保護者）に「よくしかられる」と「よくほめられる」の割合を比較してみると、男子で「ほめられる」より「しかられる」の割合が高く、女子で「しかられる」より「ほめられる」の割合が高い。また、小5と小6の場合、「ほめられる」の割合が高く、中学生になると、「しかられる」の割合が高くなっていることが示されている（図6-6）。

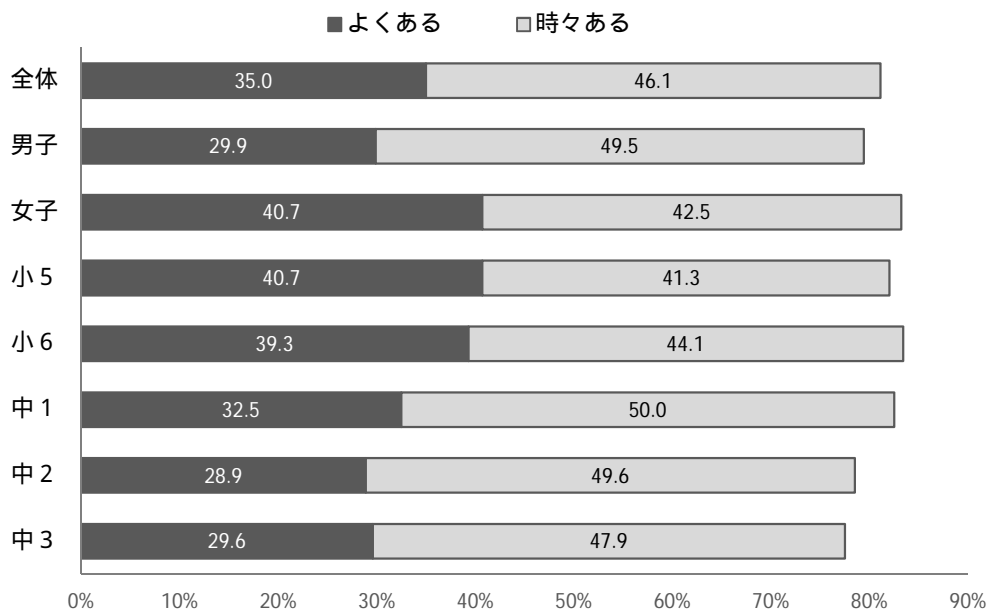


図6-5 親（保護者）にほめられる

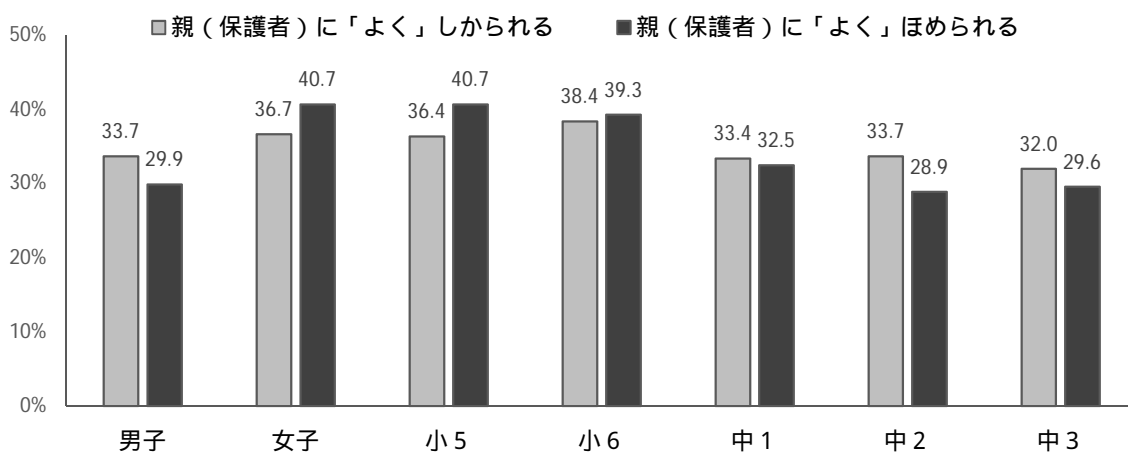


図6-6 [児童・生徒]親（保護者）に「よく」しかられると「よく」ほめられると回答した割合の比較

「家族といるのが楽しいですか」という問いに対し、「楽しい」と回答した児童・生徒の割合が58.8%と年々増加する傾向にあることがわかる（図6-7）。また、男子と女子の比較では、女子のほうが高く、学年別では、小5で68.1%と最も高く、次いで小6の61.1%となっている。中2で50.0%と最も低くなっている（図6-8）。

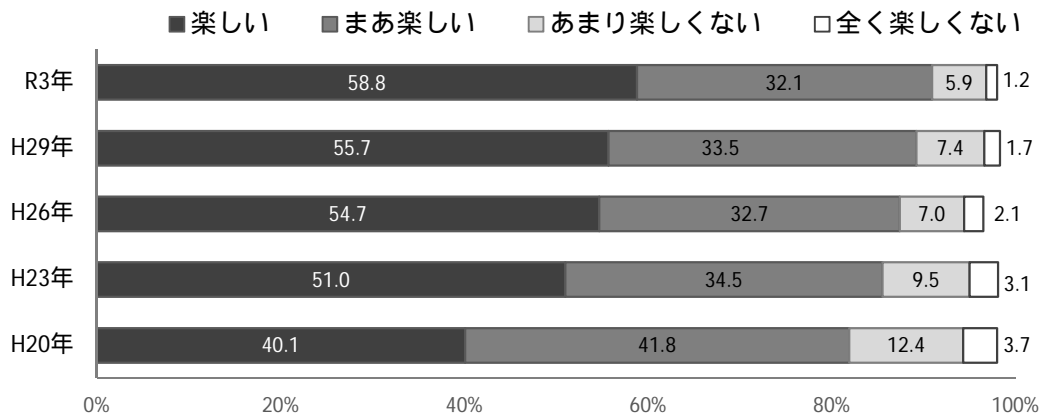


図6-7 [児童・生徒]家族といるのが楽しいですか

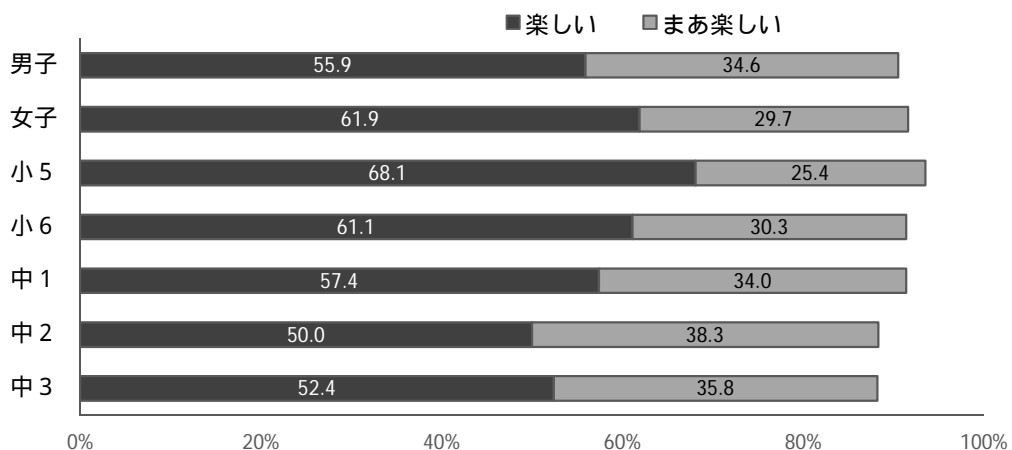


図6-8 [児童・生徒]男女別・学年別/家族といるのが楽しいですか

2 親子のかかわり

保護者は子どもの勉強や学校生活への関心が高くなっている。

子どもの勉強や学校生活に対する親（保護者）の関心について、8項目を例示し、それぞれ児童・生徒と親（保護者）にたずねた。まず、児童・生徒の回答を見てみる。「親（保護者）は私の仲のいい友達をよく知っている」「親（保護者）は私のテストの結果を聞いてくれる」「親（保護者）は私の学校の授業参観や運動会などの行事に来てくれる」「親（保護者）は私の話をよく聞いてくれる」「親（保護者）は私に手伝いなどをしたら礼を言ってくれる」に「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した割合がいずれも8割を超えている。また、「親（保護者）は私の勉強につい

てよく聞いたり話してくれる」が7割強、「親（保護者）は私の勉強をみてる」が6割強となっている。全体として、子どもから見ると、親（保護者）が自分の勉強や学校生活への関心が高いことが見て取れる。H29年の調査に比べて、「親（保護者）は私の仲のいい友達をよく知っている」以外の項目では、「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した児童・生徒の割合がすべて高くなっている（図6-9）。

同じ項目を親（保護者）の側の回答をみると、図6-10のとおり、「お子さんの仲のいい友達をよく知っている」「お子さんのテストの結果を聞く」「学校の授業参観や運動会などの行事に行く」「子どもの話をよく聞くようにしている」「子どもに手伝いなどをしてもらったら礼を言うようにしている」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した割合がいずれも86%以上と高く、児童・生徒の回答と似ている傾向が示されている。但し、親と子の認識の違いも部分的に見られた。「手伝いへの礼」について、保護者の95.9%が言っているつもりだが、子どもの83.7%しかそう思っていない。その逆で、保護者の側では勉強をみてあげることが多いという意識が4割強に対し、子どもの側では6割強が「みてる」と思っている。また、今回の調査でたずねた「子どもの普段の生活の様子を知っている」について、「あてはまる」と回答した児童・生徒の割合が6割弱に対し、保護者の割合が4割強にとどまっている。子どもの側では親が「知っている」と思っているが、親の側ではそこまで知っていないということが示されている（図6-11）。

過去4回の調査に比べて、「お子さんの勉強をみてあげることが多い」「学校行事以外でも子どものことでよく学校に行く（PTA、ボランティアなど）」の肯定率が高くなっており、他の項目ではそれほど大きな差は見られなかった。

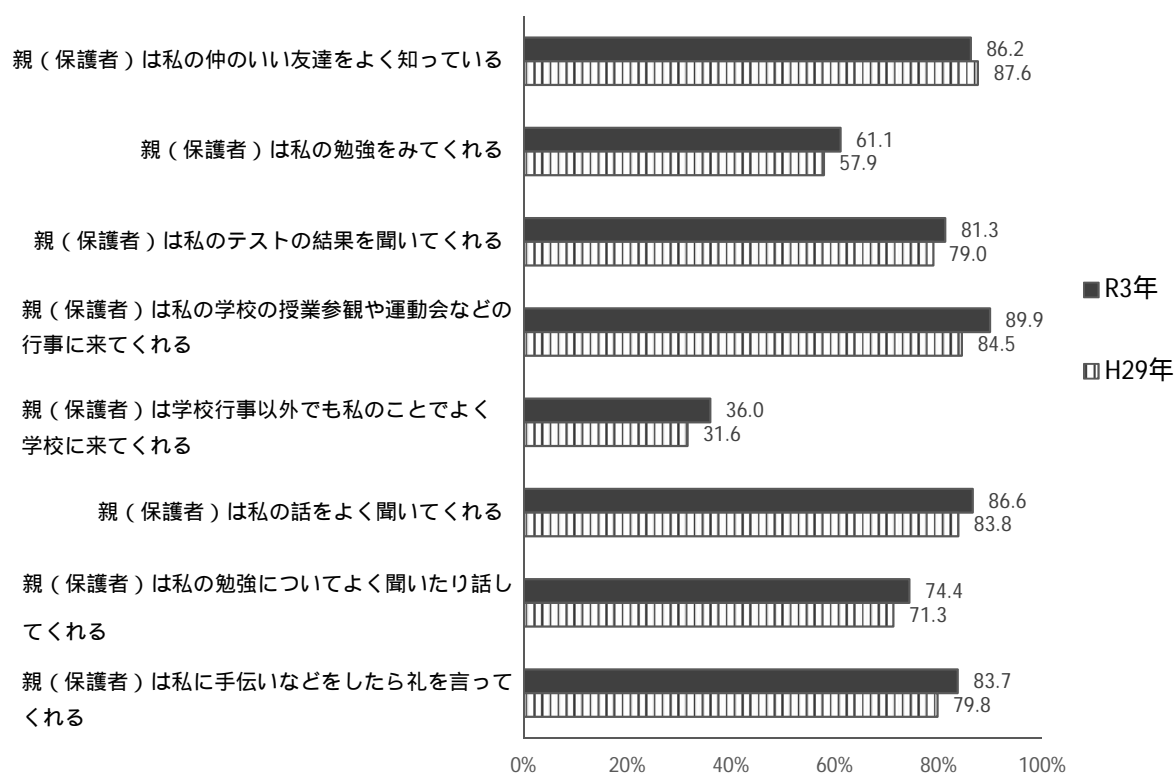


図 6-9 [児童・生徒]勉強や学校生活などへの親（保護者）の関心（「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した割合）

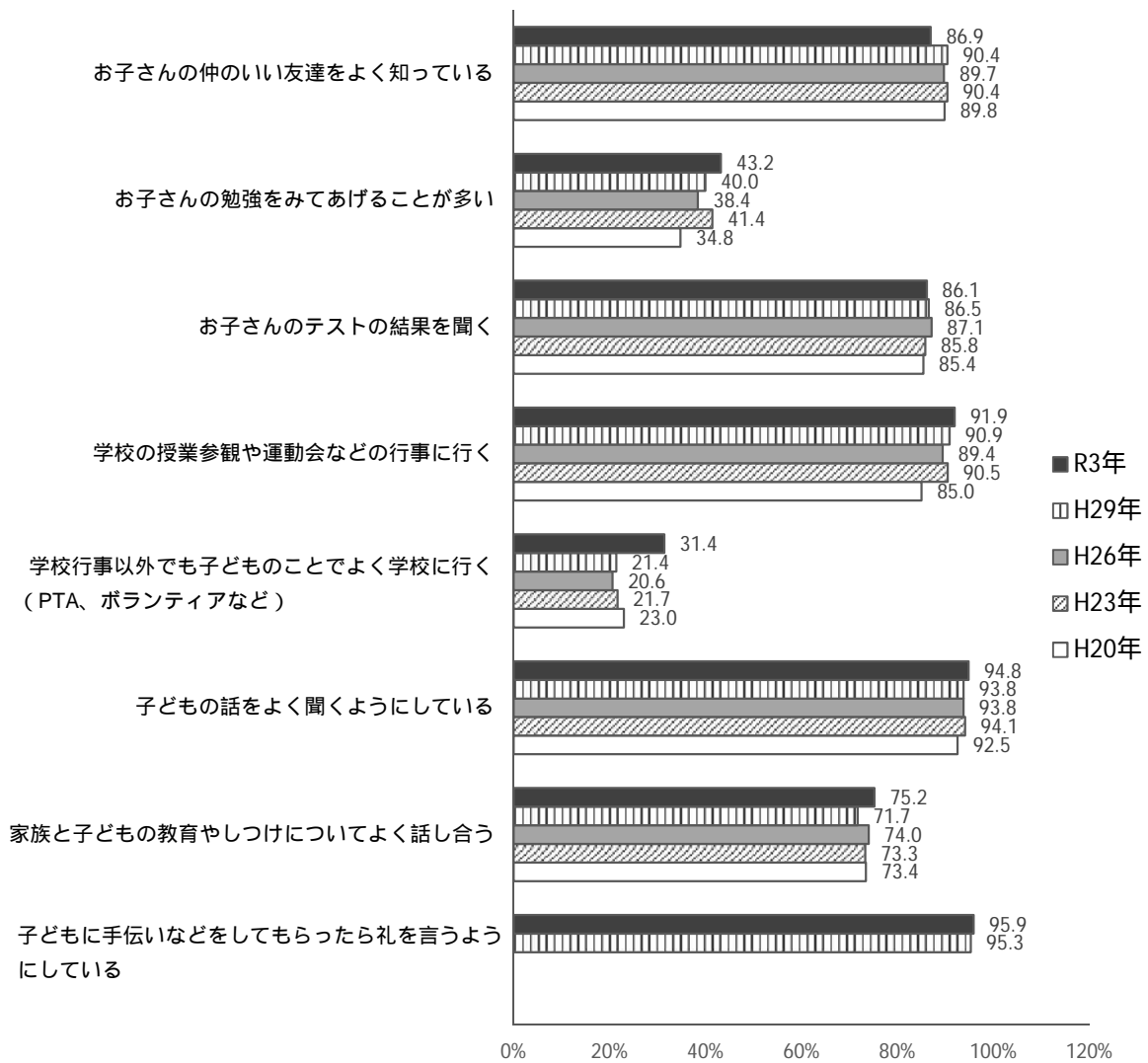


図 6-10 [保護者]子どもとのかかわり(「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した割合)

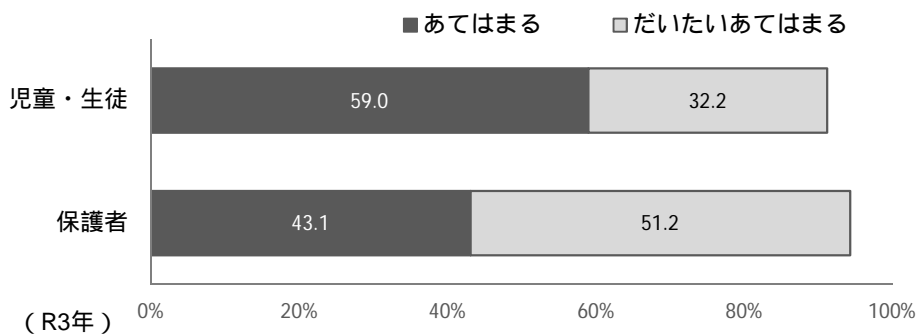


図 6-11 児童・生徒：親（保護者）は私のふだんの生活の様子を知っている
保護者：子どもの普段の生活の様子を知っている

3 子どもへの接し方

保護者の95%強は「子どもが間違っている時は叱る」「困った時は助けてあげる」と回答した。

今回の調査では、子どもとの接し方について、11項目を新しく追加した。図6-12のとおり、「子どもが間違っているときは、きちんと叱る」「子どもが困った時、助けてあげる」「できるだけ子ども自身の意思を尊重する」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した保護者の割合がいずれも9割を超え、「子どもの悩みをよく聞いてあげる」「子どもをよくほめてあげる」も8割台の高い比率となっている。一方、「子どもを甘やかすことが多い」が43.7%、「子どもに、無意味に怒る時がある」が19.5%、「子どもをほったらかしにしている」が15.0%となっていることも注目すべきであろう。

次は、保護者の接し方から子どもの家族との関係についての感じ方を見てみる。図6-13～図6-15に示しているように、「子どもをよくほめてあげる」「子どもの悩みをよく聞いてあげる」「できるだけ子ども自身の意思を尊重する」という項目に対し、肯定的な回答をした保護者ほど、その子どもが「家族と話をよくする」「休日に家族と買い物や遊びによく出かける」「家族といるのが楽しい」と回答した割合は高くなっている。

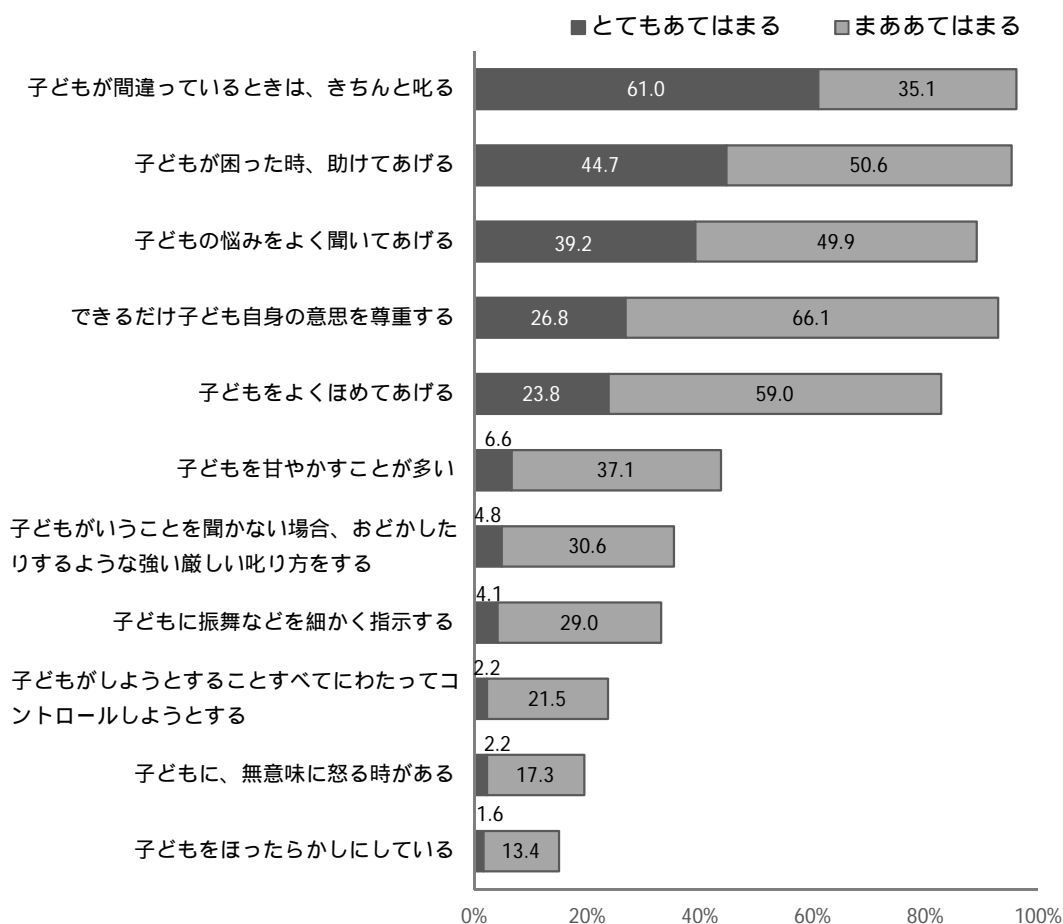


図6-12 [保護者]子どもとの接し方(「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合、R3年)

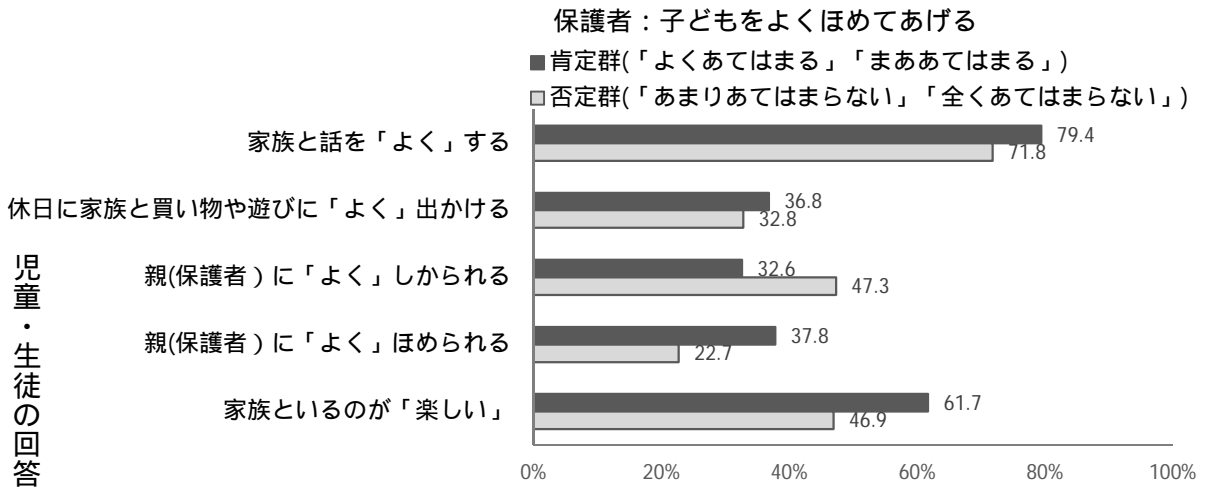


図 6-13 保護者：子どもをよくほめてあげる × 子どもの家族への感じ方

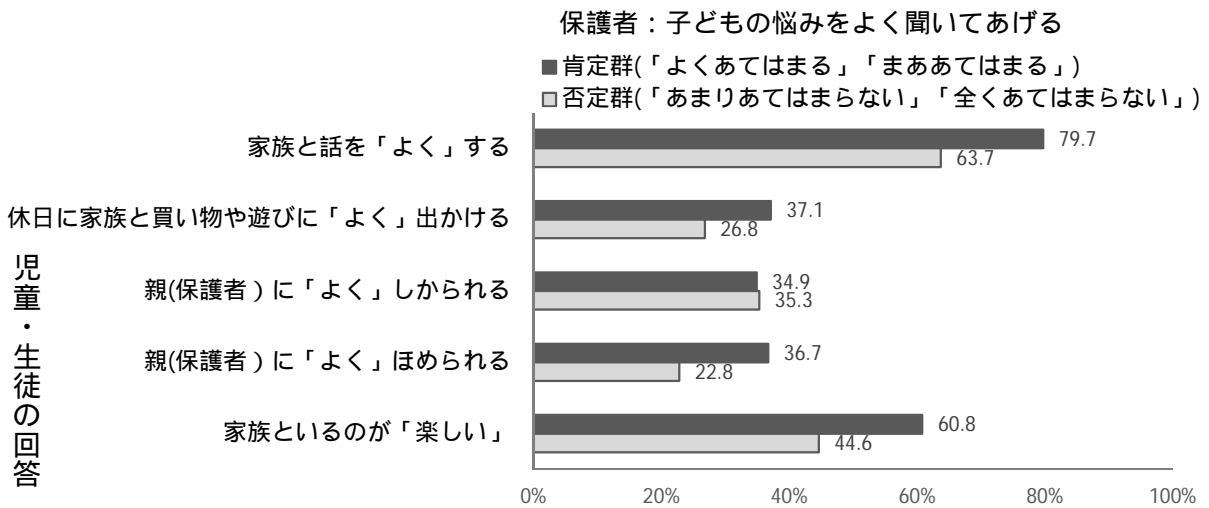


図 6-14 保護者：子どもの悩みをよく聞いてあげる × 子どもの家族への感じ方

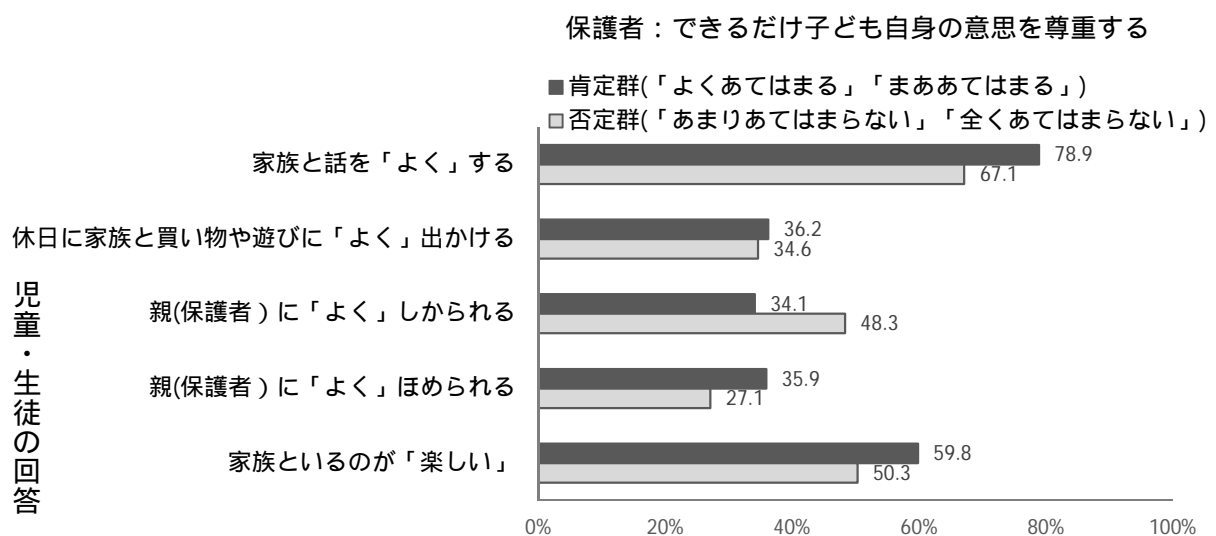


図 6-15 保護者：できるだけ子ども自身の意思を尊重する × 子どもの家族への感じ方